

第2回住吉海岸（仮称）懇談会質疑応答要旨

日時：平成19年10月10日（木）

19：00～21：40

会場：宮崎市民プラザ

要旨

○データの信頼性について

- ・港湾関係課は参加しているのか。この事業の最高責任者は誰になるのか。
→港湾課も出席している。直轄事業となった場合は、事業担当が国土交通省となるので、最高責任者は、国土交通大臣となる。
- ・最初の資料 P31 の右上で低平地として示されている部分（一ツ瀬と石崎川の間で青色の箇所を示された地域）は根拠があるのか。
→国土地理院のデータを基に、ある一定の高さより低い部分を示している。
- ・参考資料 P9 の広域の海底地形はどこが調査しているのか。また、同資料の13ページ目の資料の海流の調査方法について教えて欲しい。
→調査は主に国で行ったものだが、2006年の深淺測量結果は県の調査によるものである。海流については、カメラ画像の分析をもとに調査したものであり、短期的な変動を見ている。
- ・海底地形に関するデータが出るのはいいことだが、精度がまだ不十分だと思う。
→古いデータについては、十分な精度がない場合やデータ自体が存在しない場合があるため、最近の調査のものと比較すると精度が十分といえない場合もあるかもしれないがご了承ください。

○予算について

- ・事業費が294億円ということだが、これには養浜の費用も含まれるのか。また、この内訳についてはホームページで公表していないのか。
→内訳については、現時点ではホームページで公表はしていない。事業費については、
養浜 $4000 \text{ 円/m}^2 \times 210 \text{ 万m}^3 = 84 \text{ 億円}$
ヘッドランド $30 \text{ 億/基} \times 7 \text{ 基} = 210 \text{ 億円}$
として概算したものである。
←内訳についてもホームページで公表してもらいたい。
- ・国費と県費の内訳を教えてください。また、ヘッドランド建設後の維持費についてもどこが負担するのかと、年間の試算額を知りたい。
→国の事業で行うとなった場合でも、地元（今回の場合は宮崎県）もある一定の割合の費用を負担することになるが、その割合は年度によって変動するので、この場で確定し

た値はいえない。建設後の維持費は県が負担することとなるが、工法が確定していないため、この場で確定した額はいえない。

- ・予算が決まるのはいつごろか。

→まず、国の事業として認められるかどうかというのが、11月か12月に確定される。ただし、ここで294億円が担保されたり、工法等が確定されたりする、ということではない。例年と同様なら、日本全国の海岸侵食の予算が決まるのが12月で、最終的に個別の海岸での予算が決まるのは3月の終わり頃である。

- ・来年度の申請額（予算額）はいくらか。

→来年度の予算としていくら計上するかは、国土交通省本省から提示される目安の金額に基づいて決めるが、現時点ではそれがないので、未定である。特に、宮崎の海岸は（仮に国の事業として認められた場合、）来年度が1年目となり、過年度の目安がないため見当がつかない状況である。

- ・来年度の予算については、住民には3月まで分からないのでその間は待つしかないのか。

1~3月の間に予算が決定した場合、ヘッドランドに決まるのはいつになるのか。

→ヘッドランドに決定ということ、来年度予算の計上に先立って必ず決めなければならないということはないので、（ヘッドランドになるかも含め）最終的な対策法の決定がいつになるのかは現時点では明確にはいえない。

- ・それらを決めるのは、検討委員会になるのか。

→検討委員会で検討はしていただくが、最終的な決定は、国土交通省が行うこととなる。

- ・とりあえずヘッドランドを1基つくる時期は、いつ。ヘッドランドのためにつけられた予算を他の予算に変更できるのか。

→ヘッドランドを最初に1基つくるかも含め、具体的にどの時期にどのようなことを行うかという詳細については未定である。

○事業内容について

- ・20年かけて事業を行うか分からないが、来年度は何をするかを教えてほしい。

→測量や観測装置の設置といった調査が主体となると考えている。また、養浜等の試験施工もやっていきたい。

- ・1~3月の間、住民との間でどのくらい話し合いを行うつもりなのか。来年度、試験的に行う場合、海に構造物を入れる場合に住民に意見を求めるのか。

→1~3月の間で議論を詰めて決定をしなければならないということはない。何かしらの施工を行う場合は住民の皆様にお伝えするとともに、関係する方のご意見を伺いながら進めていきたいと考えている。

○名称について

- ・名称が、宮崎海岸となっているが、漫然としており地元は無関心になってしまう。宮崎海岸となると延岡までも含まれる。問題の焦点をはぐらかしていると思う。
→海岸名称（「宮崎海岸」）については、あくまで委員会の名称としてのみ使うということで決めたものであり、地域で呼ばれている名称等を否定するものではない。住民の皆様の関心と呼ぶ方法については今後もいろいろと考えていきたい。

○侵食とその対策について

- ・港湾建設の際、浚渫して捨てた土砂の総量はいくらだったのか。また、一ツ瀬川河口の導流堤は波により先端が沈んでいるが、補修については国、県で行うのか。

→過去の調査データの分析が必要で時間がかかるので、本日この場では答えられない。

回答には時間をいただきたい。

←今すぐでなくてもいいのでお願いします。

- ・侵食は昭和 50 年以前（港湾施設建設以前）から始まっているとされているが、根拠は何か。

→議事録 3 枚目にもあるが、昭和 37 年から昭和 60 年までの間に砂浜の幅が減っていることから、侵食は港湾施設建設以前から始まっていると推察したものである。この原因としては、河川からの砂の供給の減少の影響が考えられる。

- ・砂浜を元に戻すのは、みんなが望んでいることだが、動植物にも配慮したとする点にしては、検討する期間が短すぎるのではないか。工法等、何が一番なのか検証する試験として多額の税金を使うのは疑問。

→先に役立つ試験であり、そのための試験費は無駄ではないと考えている。

試験には小規模な構造物で実験する方法やシミュレーションで試算する方法等があり、そのような検証を行う予定。

- ・世界の様々な侵食対策も吟味した上で検証を行うのか。

→そのような検証を行いたいと考えている。

- ・細かい所を指摘する意見ばかりで違和感がある。何年もかけた結果予算がつき、設計図ができていないはず。海岸を保全するために、早く事業が進んでいくことを望む。

- ・侵食が始まった時期が、昭和 50 年から始まったか把握されてないということだが、1975 年に侵食があり、1982 年に県が南防波堤の建設が始まっているとある。年号をどの位総合的に見ているのか。年表を横並びにして、見てみるとわかりやすいのでは。

→資料 P 24、P 25 にまとめてある。侵食の要因については、ある時期までが河川の砂の供給減少の影響、ある時期以降が港湾の影響と区切ることは難しい。

○土砂について

- ・養浜に使う砂はどこから調達するのか。港湾にたまった土砂か。

→港湾の土砂が使えれば使いたい。ただし、粒径が細かい土砂の場合は流される可能性

がある。施工場所も含めて検討する必要がある。

- ・参考資料 P14 の「漂砂実態調査」にある有義波高は実測値か。漂砂を考える際、季節風およびその風向の影響も考慮すべきではないか。また、参考資料 P11 の「ダム貯水池への堆砂」の資料があるが、大淀川水系の堆砂のダムの土砂を利用すればよいのでは。
→漂砂実態調査は実測値である。風の影響に関しては、細かい調査も出来ないことはないが全体に与える影響は大きくないと考えられる。ダムに関しては、堆積している砂に関する調査や、利用可能性に関する検討は可能と考えられる。
- ・参考資料 P11 で大淀川水系のダム設計時（耐用年数 80 年で設計されると思う）の堆砂量と実測は、どうなっているのか
→ダムは一般的に 100 年で設計しているが、古いダムもあり当時の計画がわからないこともある。データがわかるダムに関しては、設計時の堆砂量と実測との比較・検討が可能と考えている。

○地元要望

- ・長年議会に陳情を出し、やっと国の直轄化による侵食対策が実現しつつある。しかし、具体策がはっきりしない。事業採択されるかどうか心配であり、取り組みへの姿勢をもっと強くしてほしい。
直接関係ないかもしれないが、一ツ瀬川において海水遡上の問題、導流堤の侵食問題あり。対策が必要と認識してほしい。

○ヘッドランドの図について

- ・資料 P45 ではヘッドランド部の赤線がえぐれて（へこんで）いるが、もっとえぐれていく可能性があるのではないか。ヘッドランドを設置しても、南側に砂がつくだけなのではないか。
→資料はあくまで概略図。ヘッドランドの位置、間隔は目標に応じて変更可能なので、適宜考えていきたい。この図では、目標とする砂幅を 50m としている。
- ・養浜する場合、No.1・2・3 の間に土砂を入れるのか。
→一律に同じ量を入れるのではなく、その都度検討しながらやっていく。

○宮崎港について

- ・マリーナに 35 億円の防波堤建設が予定されていると聞いている。宮崎港の防砂堤について教えてほしい。
→防砂堤は、住吉海岸の対策により、流下してくる土砂が変わるので、対策がハッキリしてから要求する考えである。現在考えている規模は、300m で約 20 億を考えている。
- ・南防波堤の延伸要望について
→船舶の安全性の観点から必要であるため、要求は行っているが、漁業補償が解決しないため、難しい状態にある。

○赤江浜について

- ヘッドランドを7基設置する以外、一ツ瀬川まで他のシミュレーションはないのか。砂の供給源として、雨天時には、石崎川からの砂の供給があるので、せめて、No.6・7だけは、ヘッドランド形をT型とI型に変えてもよいのではないかと思うが、T型とI型の違いを教えてほしい。赤江浜はなぜ、人工リーフではなくT型にしなかったのか。
→外からの砂の供給に関しては検討したい。ただし、ヘッドランド形がT型でもI型でも外からの砂の供給は遮られるのではないかと考えられる。安全性については、構造物のありなしに関わらず考慮する必要があると考えている。
→人工リーフは、波の力を減少させて砂を残すことを目的としている。
ヘッドランドは砂をとどめるためのもので目的が違う。

- 鹿島では、年間3~4人亡くなっていると聞くので、安全対策についても考慮してほしい。
→安全性については、構造物の有無に関わらず考慮する必要があると考えている。

○要望

新たな構造物を設置して欲しくないので、南防波堤を少なくする等の対策で砂を増やすことも考えて欲しい。

○勉強会について

→月1回程度で定期的に行っていただけたらと思っているので提案したい。